

あろま

2010.3.10.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

3月例会 1年のまとめ

3月6日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック3月例会が開催されました。この日は「1年のまとめ」として、参加者それぞれが1年間取り組んできた実践のまとめを話しました。また、参加者は5人でした。

それぞれの1年のまとめ

6年生

6年生を送る会が前日にあったが、感動的だった。あと十数日で卒業だが、「ああ、よかったな。」と感じている。途中、学力のことをどうしようかと悩んだこともあった。人はいいのだが、学力に課題を感じていた。5年、6年と初めて2年間付き合った子どもたちだった。素直な子たちだが、エネルギーの乏しさも感じている。

〔付け加えとして、同じ学校に勤める参加者の発言〕

6年生を送る会で行われた綱引きに6年2組は負けてしまったのだが、そのクラスの子もたちと話したときに、「綱引き、あんまりやりたくなかったんだ。だって、上履き脱げちゃうし...。」というようなことを言っていた。そんなところに象徴的に表れているのではないかな。

5年生

この1年間、たてわり班活動が活発に行われ、様々な行事に児童会が主体的に関わってきた。たてわり班担当の先生の指導や、児童会担当の先生の指導で、5年生の子どもたちは力をつけてきている。先日の6年生を送る会でも、5年生がしっかりと仕切ってやっていた。その一方、子どもたちの人と人との関係をめぐる課題が顕在化してきている。

1年生

大切だと言われた学力ややさしさに加えて精神年齢ということもあるように思う。「ごめんね」と友だちに言われても、先生に言わないと気がすまない子がいる。我慢のできない子がいる。勉強に取り組む姿勢が雑になってきている子がいる。困ったことがあっても言えない子がいる。いろいろな取り組みをする中で成長もしてきているが、保護者に手をかけてもらっていないのを感じる。保護者にどのように伝えたらよいかということや、子どもたちにどの程度まで要求していたらよいかということについて悩んでいる。

1年生

教師になって4年目、2度目の1年生だった。前に1年生を持ったときの反省を生かしながらやった。また5・6年生を担任した後だったので、小学校における出口像も考えながら、1年生からしっかりと取り組まなくてはと思ってやった。4年前には1年生にどこまで要求したらいいのかははっきりしなかったが、その後どんどんやらせていいということがわかったので、やらせてきた。それに応えて子どもたちはよくがんばった。できない子をできるようにするのは大変なことだが、どんな子も必ずできるようになるのだと思っている。

できない子がいるので、しつこくタイルを使って指導する。できる子も、ほかにどんなやり方があるか考えさせるようにしている。できる子はタイルが頭に浮かぶようになり、できない子も特別扱いを受けたように思わない。

やる気はすごくあり、リーダーになりたがる子も多い。教科書はむずかしいところもあるので、飽きさせず、丁寧にわかりやすく指導する必要がある。

甘えたい子、寂しい思いをしている子はいっぱいいる。

「学級づくり」とは…

それらの報告を受けて、和田さんから学級づくりに関する話がありました。いろいろあったのですが、たとえば…

学級づくり

学級づくりは学級の子ども集団をつくっていくことで、教科と教科外との両方の面で考えていく必要があります。教科では科学的概念や法則を教え、系統や認識の順次性があります。一方、教科外は自治的諸能力を育てるもので、行為・行動の指導が行われるもので、非系統的で、

生活集団

学級集団は目的に向かう集団であるべきです。そのために学級の目標をつくるのが重要です。いつもその目標に立ち返り、今学級はどこにいて、どこに向かって進んでいるのかを学級の目標に照らし合わせて考えるのです。

生活集団では、行事づくり、生活約束づくり、生活の行動づくりが行われます。生活の行動づくりには、当番活動と係活動があります。当番活動は、みんなのためにやらなくてはならない仕事で、みんなが平等に分担してやるものです。必要最小限に留めます。それに対して係活動は、学級生活上あったほうがいいもので、創造的な活動が期待されます。

不自由さを自覚する

不自由と感じたことを、自分で不自由だと声を上げないと損になる、人に任せていたら不自由なままている、そのように不自由さの自覚から自由の要求を導き出すことが生活集団づくりで重要であるということでした。

生活 科学 生活

今、学校で学んだことが生活の中で活かされず、覚えていればよいというふうになっていますが、本来、学校で学んだことが生活に生きていかななくてはなりません。例えば、学校で理科の時間にマッチの擦り方を学んだならば、生活の中でマッチを擦る権利があるのです。しかし、「あぶ

ないから」と認めてもらえないことも多々あります。権利が制限されるのです。そんな時は「
ちゃんの家ではマッチ擦らせてもらえて、いっしょにお料理も作ってるよ。」と ちゃんとの
団結が必要です。こうして権利のための闘争をして、力関係を組みかえていくのです。

参加された方の感想から

「知力をいかにつけるのか」という問題
が常にある。親も、子どもの学力が充実する
ことがその子を評価する一番の材料になる。
強引にでもやらせるという姿勢も必要だと感
じた。その手法や、具体的な協力体制をどう
作るかも考えたい。

集団を目的的集団として、「卒業式を成功さ
せる」という目的をもたせていきたい。

(Aさん)

1年間の反省を通して、子どもの側の課題
と、私の課題が明らかになりました。和田先
生のお話で、何をするにも「知力(cool)」の
大切さがよくわかりました。

クラスの中には様々な子どもがおります
が、どの子にも、私ができる限りの知力を身
につけさせてあげたいと思いました。

(Bさん)

みんな担任としてよくがんばっている
なあと感じた。

大切なことは自分の実践の枠組をつか
んで、これからの教育実践の構図を考えら
れるといいなと思った。で、それなりの話
をさせてもらった。少しでも役に立てばい
いなと思いました。

(Cさん)

・みなさんの話を聞きながら、一年間を
ふり返り、自分の課題も見えました。

話を聞いていて、少しむずかしいか
な?と思うときもありましたが、子ども
との関わり方について、「知力」をつけ
ることが大事になるんだとわかりまし
た。

自己肯定感を育てつつ、周りとの関係
の中で子どもの様子をとらえ、成長して
もらえるよう、自分も関わっていきたく
と思います。

(Dさん)

教科の中で覚えたことは生活の中で生かす権利があ
る。そして、権利のための闘争をして、力関係を組みか
える必要があるという話が、よくわかりました。

体育の社会性についての話も興味深かったです。

目的に向かう集団、集団のめあての大切なこともよく
わかってきました。

(Eさん)

「春の研究集会」のご案内!

西多摩ブロック30周年記念・東京支部例会を兼ねています。

西多摩ブロック恒例の「春の研究集会」を下記のような計画で準備しました。

特に、今回はブロック30周年の節目を迎え、西多摩ブロックが歩んできた研究の足跡をたどりながら、また、同志会の今日的課題をも取り上げ、これからの研究の方向性についても、諸先輩たちのご指導をえながら、進めたいと計画しています。

学年末の慌ただしい時期ですが、共に学び合える研究集会ができますよう、よろしくご参集のほど、お願い致します。

- 1 日時 3月20日(土)午後 1時00分より 開会 あきる野市立屋城小学校
3月21日(日)午後12時00分 閉会 八王子市立上川口小学校

2 場所 研究会場 内容

1日目 あきる野市立屋城小学校 042-558-1129 (渡邊)

記念講演 講師:堀江 邦昭氏

このあと、五日市ファインプラザ・プール(予定)*車移動します。

ドル平の研究。今日的到達点を実技で検証する提案

水泳実技研修 講師:荒木 豊氏 平田 和孝氏

宿泊会場 「たつみ」*屋城小近く 042-559-1617

30周年を迎えて 報告:渡邊 光雄氏

その後、宿泊会場にて、交流会へ.....

2日目 八王子市立上川口小学校 042-654-4403 (井上)*翌日 am9:00~

「マット・跳び箱・鉄棒について」実技講習

~なぜ、そうすると、うまくいくのか! 講師:山内 基広氏

- 4 参加費 2日参加費 プール費用 + 資料代 + 宿泊・交流会 で 10,000円
通い2日参加 プール費用 + 資料代 で 1,500円
夕食・交流会参加 で 4,500円
1日参加費 プール費用 + 資料代 で 1,000円

5 問い合わせ先 渡辺光雄 自 042-552-1631

申し込み 3月8日(月)までに! メールアドレス watax2@t-net.ne.jp